

第9回ごみ有料化等検討委員会
会議録

平成23年11月14日(水) 午後1時00分～
市役所4階 大会議室

- 【出席委員】 浅利委員長、中西委員、小林委員、藤尾委員、樽井委員、高森委員、石川委員、相川委員、公門委員、奥田委員、横井委員、松本委員
- 【欠席委員】 三木副委員長、藤堂委員、安原委員、筒井委員、山田委員
- 【事務局】 森住専門委員
小紫副市長、奥谷生活環境部長、中谷環境事業課長、辻中環境事業課長補佐、大窪事業係長、竹本管理係長、鳴川管理係員
地域計画建築研究所 小泉

【配布資料】

- 資料 「ごみ減量化に向けて」アンケート集計結果
- 資料 ごみ半減プラン概要版のコピー

1 開 会

傍聴者確認9名

事務局:本日の会議の会議録署名委員については、中西委員と藤尾委員にお願いいたします。

委員長:今日は後半少し議論の時間を考えていますので、議事に入りたいと思いますが、今日は特別に副市長に来て頂いていますので、少しご挨拶をしていただきまして本題に入りたいと思います。

副市長:副市長の小紫でございます。事務局から今までにいろんなご議論いただいて、もうすでに何回も議論を重ねていただいているというお話は聞いてございます。なかなか有料化という、ある意味で結果を求める話ということで大変難しい部分ございますけれど、生駒市としてごみを減らしていくということは、その市の運営上というのはもちろんまさるところながら、生駒市民全体のことを考えましても、ごみを減らしていくという方向性につきましてはプラスになることだろうというふうに考えてございます。その中で有料化という手法がどういう意味を持つのかと言うところについてこの委員会で色々ご議論いただいていると思います。今回はワークショップがメインということでございますが、最後どのような形で着地を目指して行くのか。またご議論頂けれ

ばと思います。引き続き宜しくお願いいたします。

委員長：ありがとうございます。しばらくご参加頂けるようですので、また逆に直接お伺いしたいことがありましたらお願いしたいと思いますが、まずは資料を通したいと思いますので、アンケートの調査結果ということでご紹介をしたいと思います。

事務局：ごみ減量に向けてのアンケートの集計結果につきましてご報告させていただきます。

アンケートの結果概要を説明。

事務局：まとめと致しまして、ごみ減量化の推進には、若い世代や男性への啓発の強化が必要であり今後その啓発方法につきまして、有料化を含めた十分な検討が必要であると考えております。簡単ですが以上で報告を終わります。

委員長：ありがとうございます。他にも注目すべきところでQ 1 1 というのがありまして、「ごみ半減プラン」を知っていますかという質問に対しては、内容があること、内容を知ってという人が半分以上はおられるという状況でこの中から内容までよく知ってごみ半減に向けて協力して頂けると、いう方を増やす為の策を考えるのが、結構重要だと思います。一方で難しいのは下から3つ目の体験型の環境教育・環境学習活動に参加するという人に関して、今後も行ないたいとは思わないという回答が多いので、どうやったら改善できるのかが、ポイントになってくる。

委員：今回のこのアンケートの中を実施される前に、生駒の広報で有料化という言葉がこの2ページ間に16箇所出てきている。一般に有料の反対は無料ということになっているから無料の考えも充分検討する必要があるということで何回かそういうのをやってください。有料の事ばかり持っていく話ばかりじゃないですか。無料化なんて一言も出てきてないのは、非常に市的というか私に言わせたらおかしいのではなくて間違いだと思う。このアンケートはあまり意味がないのではないかと思う。ごみに対するビジョン・理念がもられてない、それが一番の問題だと思う。

委員長：市民からの質問に関して回答すべき内容もあるとおもいますが、そこは逆に市民の方々と共有すべき内容も非常に多いと思っています。そこは市の方と勉強しながら発信内容は精査していく必要がある。

委員長：アンケートの中で環境・ごみ問題についての情報・知識を得る方法としてやっていることでは、市の広報紙やリーフレットなどを見ておられる。今回厳密にやるのであ

ればそういう方とそうでない方の差を見るということもできると思います。そこは少し私の方でも検証したいと思います。私の印象は、有料化に関してはもっとアレルギー反応が出ると思っていましたが、比較的冷静に見ておられる印象は受けとれます。環境学習の教育レベルも含めて理解度、知識、レベルは高いと思っていますのでどういう形でこの地域の施策に関与して頂くか等知恵の絞りどころと思っています。

事務局：広報が10月15日、郵送のアンケート調査は10月9日発送というような形にしておりますので、あくまでも10月ということを基点に一応書かせてもらっている。

委員：広報に年間の経費が17億出ています。17億というのは以前の会議のときには家庭系と事業系両方で17億と私は理解しております。例えば京都市ではごみの処理経費全体の数字を住民で割って一人当たりいくらかかっていますという表示はされますか。というのは工業が多い所であれば、当然一人あたりも増えてくる。

委員長：日本自体の統計も両方を含め一般廃棄物というくくりです。大体年間 18,000 円～20,000 円くらいで小規模の事業所って言うのが入っています。特に京都の場合暮らしと職業が一体化しているところが多いのでなかなか線引きが難しい。

委員：自分たち一人ひとりをみたら 14,000 円かかっていると読めますが、家庭系だけとは違いますと言いたかった。

委員長：他何かありますか。

委員：Q17 番の最終まとめているところがわりとごみへの意識とか関心率が高いですけど実際にこの中で活動されている方というのが少ない。しかも今後もある予定がないっていうのは残念。それが有料化した方が、実質的に何かさせる方が従うって見るべきなのか、それよりもっと反発がすごく出るのかというのが分からない。

委員長：今はやっていることに対してはあんまりする気はないととるのか。

委員：前向きに答えてくださるのが普通かなと期待するけどそれが無い。

委員長：そのように言っている人がお年寄りばかりだともう仕方がないのかなと思う。

委員：回答者がお二人で暮らしの女性の年金方が多い。女性となっているので忙しいこともあるだろうし、活動しようというエネルギーになかなか結びつかないと思います。

委員：全体的に関心がしっかりあって、関心がないのではなくて普段から関心を持ってちゃんと取り組んでいるからこそ別にわざわざ勉強しに行かなくてもいいというふうな評価と思って、私は逆に生駒市の市民の民度の高さを感じた。分別とかでも今回プラスチックの分別のこととかも、関心高くちゃんとやっているような結果と思った。1ヶ月半程経ったがプラの分別はどうですか。

事務局：10月いっぱいまで全体で50トン出していただいています。そのうちの36%くらいが不適物です。

委員：市民の方は不適物が分かってなくてプラスチックだったら何でも捨てられると思っている方が多いと思う。頭から分かってらっしゃる方ばかりでやっているとそのような盲点が結構あるのではないかと思います。

委員長：当たり前と思っていたら実はということがあるので基本的なところから、もう少し吟味しながら発信しないといけないと思う。

委員：単純に有料化だから反発している方も当然におられると思うがこの生駒市調査と全国調査との比較で、先ほどおっしゃいましたように生駒市の方の意識の高さっていうのは明確に表れている。その中で、なおかつ有料化にして減量化せよと言われたら、市民の立場としてこれ以上何が出来るというような反発もあるのかも知れない。

委員長：有料化のイメージは、どちらかという、やらされる感がある。生駒市ではどういうふうにやっていくのかということのを冷静にみていく必要がある。

副市長：個人的に注目していますのは、市側の課題でもあるのですが、ごみ半減プランっていうのがまだ委員長がおっしゃったとおりまだ充分浸透しきれてない。一人ひとりの方に、中身までよく知っています。いうふうにご回答いただくのは並大抵なことではないというのはよく分かっているのですが、やはり半減っていうかなり厳しい目標をやるという以上はきちんと浸透させなきゃいけないと思う。Q12の例えば4ですが、有料化についてはかなり意見が賛否両論分かれております。他のもったいない運動とか、プラの容器包装とか、集団回収とかこの辺りは肯定的な意見が非常に多いのですが、ごみの有料化については純粋に効果を聞く問いではあるのですが、恐らくここについては有料化に対する好き嫌いみたいな要素が若干マイナスとして入っていて、このように分かれた回答になっているのかなというふうにも推測できるところであります。具体的に後ろの問いQ13、14、15をみますと、実際に有料化にすれば減

量に取り組みます。という答えは結構ありますし、その辺りはごみ半減プランというものが浸透してきてこの目標がかなり大変な目標ではあるかなと、いうところがもう少しきちんと浸透すればQ 1 2, 1 3 とかの答えも変わってくる可能性があるのかなと、思ったところでございます。

委員長：はい。ありがとうございます。

委員：今、聞いていいのかどうなのか分からないが、22 年度の最終報告書っていうのを見せていただいた。有料って言う前に、プラごみの最初は2 週に1 回が7 6 %を占めていたのに、ごみがスムーズに出るからってということで週1 回にしています。いいことだが凄くお金のかかることではないのか。それをなぜ週に1 回にしたのか。月に2 回にすれば経費削減につながりますし、午後のごみも収集費用も午後からにすれば凄く安くなると書かれている。

委員長：今のような視点って凄く重要だと思っていて、この後の紙ごみに関しても紙ごみだけ逆に分別収集しだすとも凄くコストアップにつながるので、出来るだけ集団回収の方にしてもらいたいというところがある。今のプラの視点も恐らく重要だと思います。ただ、両方とも完璧なやり方って絶対ないと思いますので、そのバランスも含めて議論したいと思います。市のほうからの今の判断についてご説明をお願いします。

事務局：今言っていたのは、生駒市環境審議会、ごみ減量化専門部会というところで学識の方、公募市民の方でいろいろ議論をして頂きまして、その答申の提言を頂いたその中のことをおっしゃっていると思います。その中で、プラスチック包装容器につきましてはモデル地区ですと月に2 回でやってきたけれども、全市収集になる中では週1 回にして頂きたいという要望もあったということです。収集時間についても、生駒については今までは原則ですけれども午前中には収集終わると、午前中にどうしても収集終わるように、自治会員さんをはじめそのような意見も多かったという提言を頂いた。

委員：両方提言頂いたと、いうことでいいコトがなさっていると思いますけれど、財源をどうするかということです。車を出すことによって排気ガスも出しますし、人件費もかかるし相当のお金がかかるので、それを生ごみは午前中の方がいいけれどもプラだったらカラスが来るわけでもないのだから、午後にしたら財源ぐっと減らすことができると思う。それを要望が多いからって言うので、それを受け入れていたら財源が足りなくなると思う。

専門委員：その理解は、提言と中の分析等を別々じゃなく一緒にしている。午前中の方がいいとは提言はしていませんし月２回とは提言していません。

委員：そういう意見が出たと書いています。

専門委員：意見だけで言ったらいけないです。その意見をみんなで議論した結果、総合的にやっぱり１回の方がいいという結論になっています。第２点は午後からすれば当然経費が安くなると思うがそうではないのです。ごみ収集の費用を計算するときは運転回数でしている、午後まで伸ばしましたら確かに一見安くなるように思いますがならない。そんな話も審議会の方でも行いました。ご存知ないのは当然ですが、そういう場合はここで議論するのでなくて後で答えます。この会はどちらかというと有料化に関する議論です。

委員長：例えば京都市なんかにしてもどんどん減らしていくとだんだん最後には一応生ごみもやろうかとなっている。生駒市みたいに半減を目指しておられる中ではいろんな効率化の可能性はあると思いますから、常に市民目線でもっとこういうふうに合理化できるのではないかとこのところは是非意見を言っていただきますようにお願いします。

委員：今ごみ分別やってみて燃えるごみというのはかなり減っています。その代わり、プラスチックが倍になっております。一週間も家に置いといたら置く場所なくなるというくらいです。

委員長：そこからプラスチックの元となる容器包装がもうちょっと簡素化させていく道があればいいのです。

委員：あれは圧縮したらもっと小さくなると思う。

委員：今のように生ごみ以前の問題でなるべく買わないように長年やってきたけども、プラスチックを回収するようになると、どんどん買っても無料で市が回収してくれるなら、どんどん買えばいいし何かその辺が何か疑問に思っている。生ごみは出したいけど出さないように各家庭のやり方で工夫しましょう。それが皆欠けてきて今こういう問題が発生しているように思う。だから有料化とか無料とか以前の問題で人間としてどう生きていくかと、言うことがもう忘れてしまって、この出たごみをどうするのかと言うことになってきている。行政に頼るばかりではいけないで住民に出来るレベルです。有料化とかいう以前の問題で、住民のレベルでどれだけ協力できるか分別を一生懸命してどうするかをもう一度原点に戻らないと駄目と実感しています。有料になっても

それぞれが努力することで個人個人の金額が変わってくるでしょう。例えば障害もっておられる方、高齢者に優しい有料化もあるでしょう。有料化は均等に有料化というイメージで考えてしまうのですが、努力しだいでそれこそゼロにもなろうと思えばなるわけです。有料か無料とかいう以前の問題でもっとこう一歩進んだ話合いをしていかないと細々したことをいろんな話をするのもとても大事なことですけど、この検討委員会で意見がまとまった時点でそれをどう進めていくかがこれからの大きな課題です。

委員長：はい。ありがとうございます。

委員：2020年まで焼却半減化は夢のような話だと思っていたが、ペーパー類なんかでも人の目に触れては困るようなものは焼却すると限られていますので、2020年の年まで減っていく傾向にあると思います。仲間内では大人用オムツの処理に困っているとのことだが、40ℓの袋では間に合わないで70ℓにしないと入らない。それを一律に有料されるとちょっと困るので、生駒市役所内でも横の繋がりで連携されて、何かいい知恵を出してほしいと思います。

委員長：ありがとうございます。

委員：この会議今まで色々話しましたが、この委員会でやるのはごみ減量資源化の促進やごみ処理費用の公平性の確保の観点から家庭系ごみの適正費用負担のあり方について検討します。と、これが一番ここでやりたいことだったのかと思う。ただ、リサイクルも費用かかるので、その費用負担をどうするという話だったと思う。

事務局：今おっしゃるとおりです。

委員長：ごみ半減というのがもの凄く高いハードルです。有料化というカードをどこで切るかという切り方をするかというところにも血を巡らさないといけないと思う。

委員：このごみ半減というのは、燃えるごみを半減という意味ですか。燃えるごみを半減する代わりに、プラとか増えてしまうわけで、それをリサイクルする費用をどうするのかが問われている。

委員長：勿論、できるだけそのコストをかけないようにするやり方っていうのも同時に考えないといけないのです。

委員：この間の中で期限をきって市民に一回挑戦してもらって、それでも半減できなければ導入しようという話も出ていた。バイオマスって凄いお金かかるが、その財源を私は有料化した財源から賄おうと思っていた。バイオマスまでいかないところまで削減を市民が出来れば別に有料化しなくていいと言ったのですが、その目標値が凄く難しいと思った。全然出来ない数値を市民の人にやってみましょうと言ったところで、どうなるのかなと思う。期間決めてちょっとずつ遅れていくわけで有料化してそのお金でバイオマスとか考えていくと、10年で収まるのかなと思ったのですけどもどうですか。

委員長：心配しているのは今回のアンケートを見て、皆さんの総意で有料化になるというのであればそれはひとつの決断だと思うが、その有料化で期待される2割3割という削減がこれで達成されるのか心配した。半減プランの中で有料化をもっと戦略的に位置づけて使うというやり方もあると思った。それは別に私自身が他の自治体とかを見ていて思っていることであって必ずしもここに当てはまるかどうかは分かりません。

委員：有料化以外に他に手立てがあるのだったら、ここで言ってほしいです。反対って言うのは凄く簡単だと思う。何か他に案が出てくるのかと思うとそうでもない気がするので、今まで言わなかったけど案があるならば言って頂きたいと思う。

委員長：それをこの後、本当に実現できるのかというところを見極めていかないとはいけません。3割削減目標にされている自治体であれば、有料化されようが、何されようがいいとは思いますが、半減となれば有料化は単なるオプションひとつに過ぎなくて、有料化したからって達成されるのは2割3割でやっぱり残りの方が心配です。バイオのコストの話に関していいますと本当にどういう政策オプションを取れるかによってかかるお金も全然違ってきます。

資料の左のページの上の方に、円グラフがあります。資源化できないものが3割くらいあってこれはとりあえずおいておいても、例えばプラだと最終このプラの内6割7割は抜かないといけない。紙に至っては8割9割です。ほぼ100%市民全員がそれだけしないといけないというシステムが有料化だけ達成されるのかという和多分無理だと思う。この目標の厳しさとそれを実現するためには今有料化をしていいのか。市の皆さんも原点に戻ってもっと根本的にどうにか出来ないのか考えないと絶対無理だと思う。プラの話にしても発生抑制の方を事業者サイドの方とも真剣に議論するときに来ているのではないかと思います。

家庭ごみで重さではプラがだいたい1割くらい、紙が2割くらい、生ごみが4割くらいというような今現状の割合です。カサでみるとプラが6割とか半分以上になっている。状況の中で皆さんが達成しないといけないのは、プラを6割くらい資源化のほうに出す。リデュースするということも考えないといけない。市はあまりリデュースに

は頼らないような計画になっております。紙に至っては 8 割から 9 割ここから出す必要がありますが、全員平均でそれだけやらないといけないというのがポイントなので、頭に置いていてください。10 人に 9 人が 100%分けられないといけないということで、凄く大変な目標だと思います。そういうもの凄く大変な分別をするということを確認してください。プラごみは今のところ 25%くらい回収出来ているが、だいたい 3 倍くらいにしないといけない。

これに関して従来のようなパンフレット、広報誌の配布とかだけではなくて、駅前でビラにして撒くとか、駅前でパフォーマンスするとかがいいのではないかなと思う。例えば他都市でも廃棄物減量と推進委というような制度がありますが、どこもあんまりたいした運用はされてないので人材育成的なことをやる意義があるのかと思います。次発生抑制や資源化に向け、市民と共に分別排出等の行動を起こすというので、分別率の向上と意識の向上がある。

ごみ削減に関しては自治会レベルでというところがポイントだと思っています。紙ごみの回収にお金をかけずに 9 割協力してもらうなら、例えば資源業者がステーション回収なら一番コストをかけないやり方です。紙の収集を念頭において自治体で市民から 9 割紙を分別しないといけないがどうやったら達成できるのかわからない。

委員：みんな一生懸命やっているが、このプラごみと生ごみとになっても、ごみ量がひとつも変わりません。なかなか理想と現実は難しいので、書いてあるように完璧な徹底はなかなか難しいと思う。

委員長：ちょっとでも近づけばと思う。

委員：その辺が大きな課題と思います。

委員：昨日斑鳩町のゼロウェイストのフェスティバルがあった。分別で有名な市町村は皆ゼロウェイストを取り上げている。それが私の俗に言うビジョンで、大都市ではありませんから、そのまま生駒市にすぐ出来るものではないし、完璧なものでもないと思いますが、ゼロウェイストということをちゃんとビジョンのように取り上げている。それは生駒市と全然レベル違います。

副市長：さっきビジョンがないというお話もありましたが、ゼロウェイストって言うのは凄く実現って言うのは極めて難しいけれどもひとつの理念として、その方向性で行きましょうっていう意味で、今ごみ半減って言うのは生駒市の出しているビジョンです。ゼロウェイストよりもより具体性があるというか、本気でこれをやるというような決意が強いっていう意味では私はゼロウェイストよりもより現実的、具体的なビジ

ョンだと思っている。

委員長：今日は一度みなさんに五月雨的に色んなご意見いただいていたけど、現状の課題を一回認識して何か出来る策があるのか見える化をしていきます。今後どういう方向にかじを切っていくかをいくつかご提案できるように次回には予定したいと思っております。計画としてはなかなか難しい現実だと思う。それは十年間で出来ないかもしれないけれど方向性としては今の副市長が言われた極めて皆様がおっしゃったゼロウェイストと同じ世界だと思う。これから席を移動してもらって見える化するっていう作業をさせていただきたいと思います。

ごみ半減プラン達成のためのワークショップ

委員長：また次回もワークショップを引き続き行いますのでよろしくお願いします。

この議事録が正確であることを証するため、議事録署名人はこれを署名する。

平成 年 月 日

議事録署名人

議事録署名人